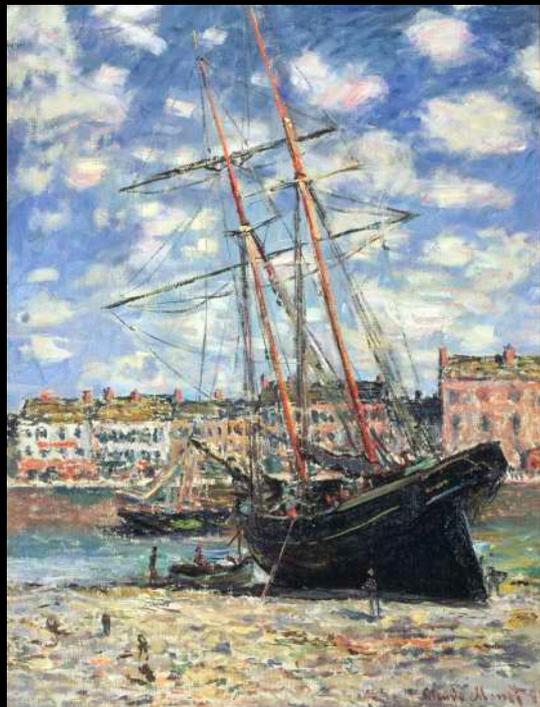
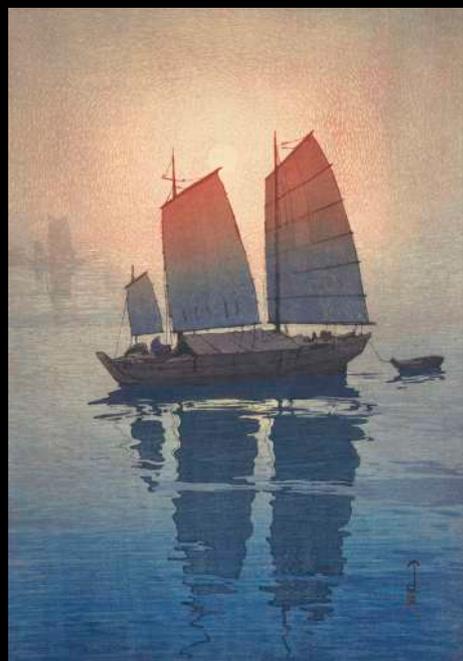




ピエール・オーギュスト・ドノワール《赤い服の女》1892年頃



クロード・モネ《海辺の船》1881年



吉田博《瀬戸内海集 帆船朝》大正15年（1926）

130 北國新聞 創刊130年

東京富士美術館所蔵

東西近代絵画名品展

2023年
7月28日(金)～8月27日(日)
《会期中無休》

午前9時半～午後6時 ※入場は閉場時間の30分前まで



石川県立美術館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



竹内栖鳳《獅子》（右隻）明治34-35年（1901-02）

東西近代名画の競演

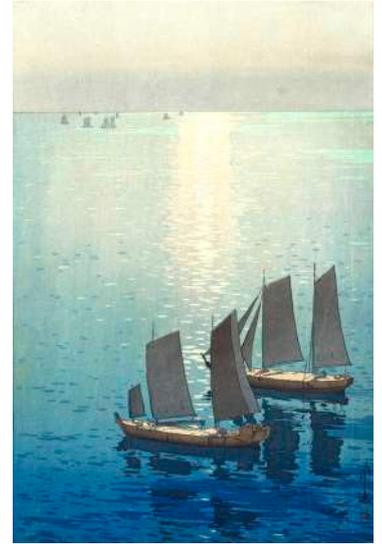
東京富士美術館は1983年に設立された美術館で、古今東西のさまざまなジャンルの作品約3万点を収蔵しています。本展は同館のコレクションより、19・20世紀の西洋絵画と日本画の名品59点をあわせて展観するものです。

19世紀に入ると、風景そのものが絵画の主題となり、また野外制作が行われるようになったことから、西洋風景画は大きな変革を迎えます。本展では、クールベらの写実主義、コロ、ミレーらのバルビゾン派、モネ、ルノワールらの印象派、セザンヌ、ゴッガンらの後期印象派と続く、西洋における近代絵画の流れをたどるのにふさわしい、21作家31点が展示されます。なかでもモネ3点とルノワール2点の同時陳列は、至福の鑑賞のひとつを提供するものでしょう。

一方、明治期以降の日本では、西洋文明の受容のなかで「日本画」という概念が形成されます。本展では、「近代日本画の育ての親」とも呼ばれた橋本雅邦、その指導を受けた横山大観や、下村観山、菱田春草、京都画壇における重鎮の竹内栖鳳、近年再評価が目覚ましい渡辺省亭など、精選された12作家14点の秀作が並びます。

そして、吉田博、川瀬巴水の「新版画」を紹介しします。浮世絵の伝統を受け継ぎつつも、西洋の遠近法、陰影法等を巧みに取り入れた両者の作品は国外でも高い評価を受け、なかでも吉田博《瀬戸内海集 光る海》は、故ダイアナ元英国皇太子妃が執務室に飾っていたことでも知られています。

本展が、西洋・日本の近代絵画のそれぞれの魅力を感じ、東西の「美の競演」を存分に楽しんでいただける機会となれば幸いです。



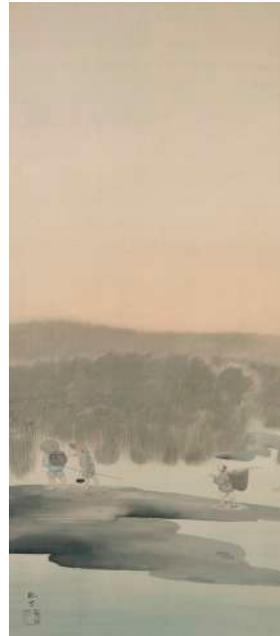
吉田博《瀬戸内海集 光る海》大正15年(1926)



渡辺省亭《糸桜に双雄之図》大正時代



下村観山《雲来》大正時代



菱田春草《婦漁》明治34年(1901)



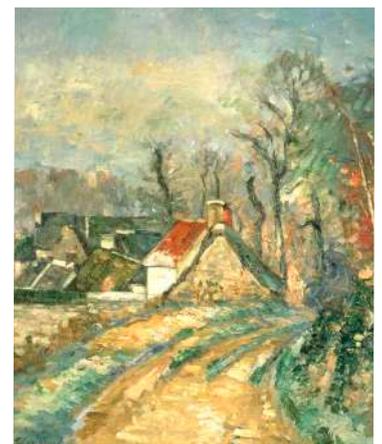
ピエール=オーギュスト・ルノワール《読書する女》1900年頃



ジャン=フランソワ・ミレー《鴿鳥番の少女》1866-67年



ウジェーヌ・ブーダン《ベルクの海岸》1878年



ポール・セザンヌ《オーヴェールの曲がり道》1873年頃

	当日	前売	団体
入場料 〈税込〉	一般	1,300円	1,100円 1,000円
	中高生	900円	700円 600円
	小学生	700円	500円 400円

音声ガイド貸出
お一人様 1台 600円〈税込〉
※音声ガイドはチケットがございません。
利用を希望の場合は、当日会場入口にてお申し出ください。

- 小学生未満入場無料、団体は20名以上
- 学生券をお求めの場合は、当日受付で学生証または年齢が分かるものをご提示ください。
- 本券では石川県立美術館のコレクション展はご覧いただけません。

【バス】

JR金沢駅バスターミナル兼六東口(東口)から路線バスで「出羽町」または「広坂・21世紀美術館」下車、徒歩約5〜7分。

【タクシー】

JR金沢駅から4km、平常時で10〜15分

【自家用車】

北陸自動車道「金沢西」もしくは「金沢森本」インターから20〜30分。来館者専用の駐車場(無料)あり

石川県立美術館

〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1

〈主催〉北國新聞社、石川県立美術館 〈後援〉石川県、金沢市、(一財)石川県芸術文化協会、北陸放送、テレビ金沢、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななほ
〈企画協力〉東京富士美術館 作品画像:©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

チケットの
お求めは

パソコン、
スマートフォンから
(24時間受付)



北國新聞イベントガイド 検索
<http://hk-event.jp>

【その他発売所】

北國新聞読者サービスセンター、香林坊大和、
ローソンチケット(Lコード 56969)

【お問い合わせ】

北國新聞社事務局 TEL 076(260)3581
〈受付時間〉平日:午前10時〜午後6時